

『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究 ～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

- **プロジェクトで育てたい人物像**
ビジネスの視点から、京都の課題を発見できる人
⇒発見した課題を「**じぶんごと**」としてとらえ、考えられる人
⇒多様な価値観や背景を持つ人・立場の異なる人を巻きこんで「**みんなごと**」としてとらえ、新しい成果を出せる人
- **育成したい資質・能力**
当事者意識・探究力・論理的思考力・協働力

【生徒の変容】（入学時と3年終了時のキャリアノートより）

- **具体的に身につけさせたい力（学習活動）**
 - ①主体性（54.6%⇒90.5%）
 - ②実行力（56.5%⇒87.6%）
 - ③課題発見・解決力（56.0%⇒83.2%）
 - ④創造力（82.6%⇒94.2%）
 - ⑤発信力（39.6%⇒78.8%）
 - ⑥傾聴力（92.8%⇒96.4%）

- **プロジェクト達成度**
 - ① **じぶんごと化**
81.0%（2年終了時）
⇒93.4%（3年終了時）
 - ② **みんなごと化**
84.7%（3年終了時）

【研究開発目標】令和元年度（事業開始時）

- ①コンソーシアム体制の確立
- ②地域課題解決型授業の実施
- ③学校ボランティアクラブの設置
- ④地域公共政策士（高校生版）の養成

【研究開発成果】令和3年度（事業終了時）

- ①コンソーシアム体制の充実
⇒外部応援団と校内担当の組織化
 - 運営指導委員会設置による事業評価
 - コンソーシアム会議設置による指導、助言
 - カリキュラム開発等専門家による支援体制
 - 地域協働学習実施支援員による連携体制（年間70回以上来校し、学校と地域をつなぐ）
 - 地域協働推進室設置による校内体制（校内のつなぎ役として学校と地域をつなぐ）
- ②地域課題解決型授業の充実
⇒3年間の系統的プロジェクト型授業の実施
 - 学校設定科目（2年次・3年次）の活用
 - 課題研究（18ゼミ）の実践
 - 生徒の変容（みんなごと化達成度84.7%）
 - 教員の意識の変化（コンソーシアムの活用）
- ③学校ボランティアクラブの設置
⇒部活動化の実現
 - 生徒実行部の設置（令和3年度より）
- ④地域公共政策士（高校生版）の養成
⇒地域公共人材開発機構・大学との協議開始
 - 上記機構内に同資格認定のワーキング設置

【3年間の系統的な学習の流れ】



【課題研究による地域とつながる学び】

- ①ゼミ形式の18の学び（各学科9ゼミ×2）
- ②全ゼミによる地域とつながる授業の実施
⇒学科の学びと社会をつなぐ
- ③授業毎にゼミレポートの記入・提出
⇒学びの軌跡が見える化
- ④中間発表会・最終発表会の実施
⇒学びの成果を発信
- ⑤ゼミ活動を通して“みんなごとか”へ
⇒ゼミ内で協働した活動、価値観の共有

【みんなごと化プロジェクト報告会】

- ①3年間の事業経過及び成果について実施
- ②報告会内容
⇒起業創造科会場、企画科会場と2会場設置
 - 地域とつながる授業実践報告
 - 地域コーディネーターによる講話
 - 私たちが創る京都の未来ワーク
 - 学科長と連携企業によるパネルディスカッション

